

第1章 アイスパビリオン

小林知晃

1.1 アイスパビリオンとは

アイスパビリオンは、寒さ体験を年中楽しめる施設としては世界初で最大級のスケールである。なかでも、アイスホールは通年 -20°C に保たれ、私たちが自然の法則にのっとり、25年の歳月をかけて制作した氷柱群は、氷壁 600 m^2 、氷量 1000 t のスケールを誇っている。360 度、見渡す限りの氷の世界が広がっている。

また、 -41°C の極寒体験コーナーやダイヤモンドダストなど様々な体験型パビリオンとしても魅力あふれる施設となっている。

クリオネ展示やトイレ美術館など他では見ることができないモノ、バナナの釘打ちなど他では体験できないコトがアイスパビリオンにはある。

1.2 各施設について

日本最大級のスケールを誇るアイスパビリオンの館内は、 -20°C に保たれ、氷の鍾乳洞や大氷柱群が迎えてくれる。施設としては、アイスホール、クリオネ展示、トイレ美術館、氷神宮 森乃神社、この4つがあげられる。では、つぎにこの4つの施設を紹介する。

1.2.1 アイスホール

アイスホールの中は、通年 -20°C に保たれていて様々な体験が出来る。

入り口では無料で防寒着の貸し出しが行われている。キッズサイズや厚手の防寒服もあるため、子供からお年寄りの方まで安心して利用することが出来る。

本施設では、様々な体験をすることができる。一つ目が 1902 年に記録した日本最低記録温度 -41°C の極寒体感コーナーである。10 秒の間極寒を体験することが出来る。二つ目が、濡れたタオルを好きな形に凍らせることが出来る、アイスタオルという体

図 1-1 アイスタオル体験



久松優菜撮影

験である。北海道民なら一度は見たことがあるあの

あの光景を体験できる。三つめは、凍ったバナナで釘を板に打ち込むという体験だ。そして最後に四つ目は、ミラクルカラーといって、自分で書いた絵文字が温度で変わるといった体験ができる。

図 1-2 アイスバナナ体験



片原顕光撮影

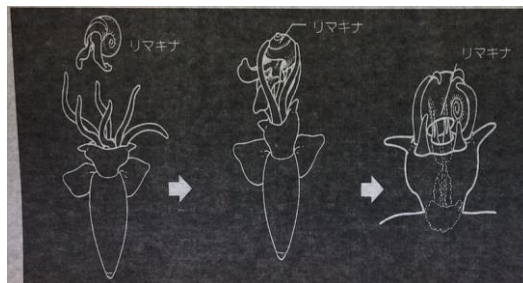
1.2.2 クリオネ展示

流氷の天使と言われる「クリオネ」が展示されている。ここでは、ゼミ内でも話題になったクリオネの捕食場面を紹介する。

クリオネのエサは殻を持った翼足類のリマキナである。その小さな体に似合わず、クリオネのエサの取り方は非常に迫力がある。クリオネはエサのリマキナに近づくと、頭部の触手の間を開き、普段は体内に収めている6本の口円錐を伸ばしてリマキナを捕まえるのである。そして、一对のフックを使い、数十分ほどかけてリマキナの柔らかい部分だけを食べ、殻は捨てるのだそう

だ。その捕食の姿からは「天使」や「妖精」のイメージではなく、獰猛さも感じさせるほどである。

図 1-3 クリオネの捕食を表した図



出所：アイスパビリオン

1.2.3 トイレ美術館

トイレ美術館は、世界初のトイレ美術館となっている。造形美術作家『中川真弓』の作品であり、紋別市に根付く木や廃材などを利用し、冬、雪、氷をテーマに、厳しく美しい世界が表現されている。

図 1-4 トイレ美術館



出所：アイスパビリオン HP

1.2.4 氷神宮 森乃神社

自然を大切にして、自然を学び、自然に感謝を込められて作られた神社である。氷をイ

メージした、ガラスで作った御神体が祀られている。

1.3 恋人の聖地としての一面

アイスパビリオンは、以前私がゼミ誌で紹介したように、『恋人の聖地』として認定されている。ここでは、恋人の聖地プロジェクトで公開されている、アイスパビリオンでのデートプランを紹介する。

12 : 30 ファンタジックな館内

氷の世界の前もいろいろなものを楽しむことが出来る。はじめに広がるのがファンタジックな世界だ。「光のシトラセゾーン」は光のシャワーのような幻想的な演出がされている。「氷の王様ゾーン」は六角形の結晶をイメージした空間から出現する氷の世界となっている。鏡の迷路のような「ラビリンス」などを進んでいく。



図 1-5 恋人の聖地

久松優菜撮影

13 : 30 アイスホールへ

世界初の北海道の冬を年中楽しめる体験美術館である。光と音が幻想的なアイストンネルを通して見て触って -20°C の極寒体験ができる。氷壁 600 m^2 、氷量 1000 t のスケールになっている。 360 度見渡す限りの氷の世界を五感で感じる。

13 : 30 -41°C を体験

日本最低気温を体験できる。1902 年に記録した日本最低記録温度 -41°C の極寒体感コーナーである。10 秒間の極寒体験でも充分の価値があり、絶叫体験ができる。

13 : 45 ダイヤモンドダスト

館内は -20°C の鍾乳洞になっている。ダイヤモンドダストとは空中の水分が凍り、氷の結晶が輝く、厳冬期の北海道に見られる気象現象である。氷の結晶が舞い踊る、神秘的な光景を楽しむ。出口付近で見送ってくれる雪だるまもかわいらしくなっている。

14 : 00 タオルで実験

-20°C で何でも凍る体験ができる。アイスタオルは濡れたタオルが瞬間で好きな形に凍らせることが出来る。この世界では、シャボン玉が凍り、消えないバブルアイスになる。自分で書いた絵文字が温度で変わるミラクルカラーや、見学中にアイスクリームが作れる

マイアイスクリームなど、どれもやってみる価値はある。

このようなデートプランが恋人の聖地 **project** では紹介されている。

1.4 氷瀑祭り

ここでは、アイスパビリオンと同じく上川町で、氷をテーマとしたイベントである氷瀑祭りを紹介する。氷瀑祭りは、北海道上川総合振興局管内、上川郡上川町にある層雲峡で冬季に行われるイベントの名称である。氷で建設された建造物やオブジェ、ステージなどが一挙に集まり、夜には七色の光でライトアップされる。開催されるのは北海道上川町層雲峡、石狩川河川敷である。

1.4.1 概要

氷瀑まつりは 1976 年に始まり、2015 年に 40 周年を迎えた。これはシャクシャインの像を作成したことでも知られる北海道恵庭市出身の彫刻家、竹中敏洋の指導のもとに発案され、第 1 回が開催された。層雲峡観光協会が主催となり、石狩川の畔で開催される。毎年通例 1 月の下旬から開催され、3 月中に終了する。会場は 1 万㎡の広さを誇り、近隣には層雲峡の温泉街が広がる。

冬季層雲峡の寒冷な気候を利用して敷地内には氷でできた建造物が立ち並び、かまくらや自然などをテーマにデザインされたオブジェ、トンネルや氷の彫刻が設置されている。その中でも氷の展望台は高さが 15m あり、まつりの会場全体を 360 度見渡すことが可能である。さらに、氷で造られた「氷爆神社」も設置されており、氷のオブジェに硬貨が付着するようになっている賽銭所も設けられている。

1.4.2 各体験・施設

1.4.2.1 北の氷酒場

毎年大好評となっている「北の氷酒場」は土日祝日のみの特別営業となっている。2018 年は上川町に誕生した「大雪上川酒造」の限定酒「神川」と「高砂酒造」の飲み比べも楽しむことができる。また、限定販売の酒粕ココアは子どもにも飲めるものとなっており、親子で楽しめるものとなっている。

図 1-6 北の氷酒場



出所：第 43 回氷瀑祭り HP

1.4.2.2 売店・休憩所

会場内の売店では甘酒・コーヒー・ミルクなどのホットドリンクや軽食が魅力となっている。中でもオススメは、地元の酒粕を使ったお母さん手作りの「甘酒」である。また、他にも上川町の手作りフランクフルトやプリンなどが毎年人気となっている。

図 1-7 売店・休憩所



出所：第 43 回氷瀑祭り HP

1.4.2.3 氷瀑神社

氷で作る神玉が氷瀑神社には鎮座している。神玉にお賽銭が貼りつくと言われているのが「氷瀑神社」である。お賽銭が貼りついた神玉はアート作品の样に見える。

図 1-8 賽銭箱



出所：Travel.jp

1.4.2.4 メイン氷像

メイン氷像は北海道内にある有名建築物をイメージしており、氷像の中はトンネルになっており、見上げるとつららがシャンデリアの样に見える。氷の世界に迷い込んだような世界観を楽しむことができる。

図 1-9 メイン氷像



出所：第 43 回氷瀑祭り HP

1.4.2.5 アイスクライミング

凍った氷壁をアイスアックスなどの道具を使って登るアイスクライミング体験である。

山を歩く不安や装備の心配をすることなく、初心者でも、道具の使い方など丁寧に説明されるため気軽に参加可能である。

1.4.2.6 氷の滑り台体験

特設の氷の滑り台をゴムチューブを使い、爽快に滑り降りることができる。子どもから大人まで楽しめる大人気体験である。

図 1-10 氷の滑り台



出所：第 43 回氷瀑祭り HP

参照 HP

- ・ アイスパビリオン HP

<http://icepavilion.com/>

- ・ wikipedia（層雲峡氷瀑祭り）

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E5%B1%A4%E9%9B%B2%E5%B3%A1%E6%B0%B7%E7%80%91%E3%81%BE%E3%81%A4%E3%82%8A>

- ・ 恋人の聖地プロジェクト HP

http://www.seichi.net/gotoseichi/sate_detail.php?l_id=203

- ・ 層雲峡温泉 氷瀑祭り 2018-北海道層雲峡観光協会 HP

<http://www.sounkyo.net/hyoubaku/>

- ・ Travel.jp

<https://www.travel.co.jp/guide/article/858/>